



小国中だより

小国町立小国中学校
令和3年1月29日
文責 八木幸夫

公立高等学校

推薦入学者選抜、連携型入学者選抜

1月28日（木）、公立高等学校の連携型入学者選抜及び推薦入学者選抜の願書受付が締め切られ、志願倍率が確定しました。今年度、本校からは推薦入学者選抜に3名、小国高校への連携型入学者選抜に14名が志願しました。公立高校の推薦入学者選抜及び連携型入学者選抜について概要を紹介します。

連携型入学者選抜

本校から、県立小国高等学校を志願する場合、保小中高一貫教育を実施していることから、連携型入学者選抜という特殊な入試が行われています。

（1）小国高校志願資格

連携型中高一貫教育の中学校に在籍している者が小国高校を志願する場合は、やむを得ない事情がある場合を除き、中高一貫教育における連携型入学者選抜とする。

（2）選抜試験の内容

①英語による面接3分程度

生徒自身についての質疑応答、30語程度の英文の音読とその英文の内容に関する質疑応答を行い、国際教育を通して育まれた主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力が測られます。主体性、理解力、表現力について評価されます。

②「学習のまとめ」の発表（5分程度）並びに面接（10分程度）合わせて15分

「白い森学習」で学んだ内容について発表します。情報教育を通して育まれた発表力について、主体性、情報機器を活用する力、思考力・判断力、表現力、地元への関心の強さについて評価されます。

* 中学3年時に取り組んだ白い森学習（地域学習）のまとめのレポート「学習のまとめ」を願書とともに提出します。発表は、「まとめのレポート」についてパワーポイント等コンピューターを使ってのプレゼンテーション・説明を行います。

* 面接では、「学習のまとめ」の発表内容についての質問、志望の動機や将来の進路希望等について行われます。

（3）試験日 令和3年2月5日（金）

連携型入学者選抜に向けて、3年生は昨年中から「学習のまとめ」のレポート作成やコンピュータのプレゼンテーションソフトを使っての発表準備、英語の面接練習などに取り組んでいます。提出したレポートは保護者の方にも目を通していただきました。総合的な学習や国際・情報、英語の授業で培ってきた力を学力試験（5教科のテスト）とは違った形で試されることとなります。学力試験がないことで、勉強しなくても合格できるというような誤った認識を持たれている方がおられますが、真剣に連携入選の準備を進める生徒にとって、はなはだ失礼

で、迷惑な認識です。

小国高校では、「白い森未来探究学」として、さらに生徒の主体性を生かし、生徒が自ら学ぶ姿勢を大切にしています。地域を題材に自ら興味関心、疑問を持ったことを、人との交流や体験活動を自ら計画、実践し学んでいく学習です。小中学校での白い森学習（地域学習）を発展させ、地域づくりに具体的に参画する学習が進められています。

一貫教育の柱として位置づけられる、地域学習、情報教育の成果が入試で試され、高校でのより主体的で深い学びに引き継がれていきます。

小国高校で行われる連携型入学者選抜は、一貫教育という小国町の特徴ある教育に根ざした入試形態となっています。

推薦入学者選抜

公立高校の推薦入学者選抜は、入学を希望する生徒の自己推薦による選抜を行うものです。職業に関する学科・体育科・音楽科・総合学科において行われます。探究科の推薦入学者選抜はありません。

（１）志願資格

当該高等学校が定める推薦要件を満たしている生徒（学校・学科によって設定されている推薦要件が異なります。）

（例）県立山形中央高校体育科の場合

【キャリア形成に係る要件（必須）】

将来高度な教育を受けることや、専門分野を活かして社会貢献することを希望し、高校生活に明確な目的意識を持つと共に専門教科の学習に意欲的に取り組む者

【成績評定概況に係る要件（任意）】 評定合計が23以上の者

【特別活動等に係る要件】

学校内外の体育的活動において、次のいずれかに該当する者で、入学後も意欲的に部活動に取り組む意志のある者

①中学校在学中に全国大会、東北大会に出場した者

②中学校県大会において、3位以上の入賞の実績を上げた者

③①、②のような実績がなくとも、個人としての優れた能力を有する者

*「キャリア形成に係る要件」に加え、それ以外のいずれか1つ以上に該当する者

（２）選抜試験の内容

調査書、面接及び適性検査、作文・実技検査、基礎学力検査等の結果を総合して行われます。学校・学科によって特色のある選抜方法がとられ、実施されています。

（３）試験日 令和3年2月5日（金）

推薦入学者選抜では学校・学科によって違いはありますが、入学者定員の30%～70%が合格内定を得ることになります。推薦選抜で合格内定を得られなかった場合は、一般入学者選抜で学力試験による選抜を受検することができます。

自己推薦による入学者選抜では、体育科や衛生看護科、食物科等特徴のある学科や工業系ではコンピューターテクノロジー等学科の倍率が高くなる傾向があり、例年激戦となっています。志願する生徒は、推薦選抜で内定が得られなくても、一般入選で再受験する強い意志で志願しています。